

## 「郵趣MYコレクション展2026 郵便切手部門」作品解説

※展示作品の紹介は作品番号、フレーム番号、作品タイトル、氏名、日本郵趣協会会員番号(会員のみのみ)、都道府県、作品解説の順になっています。

### 【A.伝統郵趣、ステーションナリー、印紙】

#### PH01(PH01)

日本最初の連合はがきと小判葉書1銭局

上野 和彦 (P-194882・愛知)

最初の外信用はがきは、UPUに加盟した1877年11月20日の、いわゆる「三五六はがき」3種、小判葉書1銭局の2種である。

#### PH02(PH02)

全国安全週間

須谷 伸宏 (S-3030・大阪)

1977(昭和52)年7月1日、「全国安全週間」の第50回を記念してキャンペーン切手が発行されました。これらの切手を連刷を中心として、製造面と使用面で展開しました。

#### PH03(PH03-PH06)

さくらめーる 1987~2002

須谷 伸宏 (S-3030・大阪)

1987(昭和62)年から2002(平成14)年にかけて、合格、入学、卒業、就職などのお祝いメッセージ用として「さくらめーる」が発行されました。これらの葉書を製造面と使用面で展開しました。

#### PH04(PH07-PH08) 【特別賞(提供：アベノスタンプ・コイン社)】

1961年花シリーズ

永吉 秀夫 (M-32613・鹿児島)

本シリーズには変則目打があり、製造面では目打が楽しめます。また全種同額面ですが、途中で料金改訂があったために実遞カバーもいろいろと楽しめます。これらを軸として構築したコレクションをご覧ください。

#### PH05(PH09-PH15) 【選考委員会賞】

国定公園切手

小田嶋 永 (M-191129・東京)

切手収集を始めた頃のお気に入りのひとつが、多色グラビア刷りが美しい国定公園切手です。貴重品や珍しいものはありませんが、自分なりに見ている飽きない切手・エンタィアを、楽しみながら整理し出品いたしました。

PH06(PH16－PH18)

在外局切手

濱谷 彰彦 (M-1233・東京)

日本は朝鮮・中国へ侵略する先兵として、それぞれの地域に日本郵便局を各地に開設した。これらの郵便局では明治33年から日本切手に〈朝鮮〉〈支那〉と加刷した「在外局切手」を使用した。

PH07(PH19－PH20)

アメリカの国立公園

池上 健 (P-194573・埼玉)

1934年から1937年にかけて、アメリカで発行されました国立公園の切手を、目打有、目打無、小型シートをプレートNo、ブロックの未使用、使用済、FDC等を、切手1枚ごとに1リーフで表現しました。

PH08(PH21－PH22)

日本の自然公園内の風景地

本間 誠 (S-7760・新潟)

日本国内には優れた自然の風景地が多数あり、国立公園や国定公園などの自然公園として指定されており、その中には切手の題材となっているものもあります。本作では、その一部を使用例とともに紹介します。

PH09(PH23－PH24)

2026 年賀郵便事情

飯嶋 賢太郎 (S-190637・東京)

今回の年賀状及び年賀郵便の中で特筆して気になったものに数多く巡り合う事が出来たので、私なりの率直な表現にて著してみました。種類・消印等の叙述的表現をお楽しみいただければと思います。

PH10(PH25－PH27) 【特別賞(提供：株式会社日本郵趣出版)】

アメリカ記念切手

伊藤 隆之 (P-7743・東京)

アメリカの記念切手は、1893年の「世界コロンブス博覧会記念」の16種セットから始まります。今回の展示は、それから1920年までの記念切手を、未使用やマルチプル、カバー、プルーフ等により専門的に構成しました。

【B.郵便史、航空郵趣、郵便印】

PH11(PH28－PH30) 【榎澤選考委員賞】

群馬県東毛三郡の初期郵便印

森下 幹夫 (L-55・群馬)

東毛三郡とは群馬県南東部、山田郡、新田郡、邑楽郡の三郡をいいます。今回、この三郡内に明治期に開設された郵便局で使用された郵便印(不統一印、記番印、二重丸印)を展示します。

#### PH12(PH31 – PH33)

郵便料金(封書)60円時代の消印24時間型

矢崎 邦夫 (S-8817・東京)

郵便物には消印が押されます。郵趣家には、この「日時」が大切です。1日24時間という押印作業に感謝した作品です。切手の梵鐘60円は郵便料金昭和56年から昭和64年(消費税直前)まで使われ、その間の消印の種類は4種類で、これをまとめました。

#### PH13(PH34 – PH35)

埼玉県東南部6局他の初期郵便運送経路

金沢 真之 (S-5211・埼玉)

ご当地印コレクションを用いて、埼玉県東南部の草加・越ヶ谷など6郵便局他の郵便物運送経路について展開を試みたものです。対象期間は明治5年から東武鉄道が開通して鉄道輸送に切り替わる明治32年8月迄です。

#### PH14(PH36)

大阪・関西万博郵便局 開局から閉局まで

伊藤 裕介 (P-152502・千葉)

2025年4月13日から10月13日まで開催された大阪・関西万博では2つの郵便局が開設され、郵便印と郵便証紙が使用されました。両局の4月2日開局から10月20日閉局までを記念押印や実郵便でたどります。

#### PH15(PH37)

Entires of 1 Sen Black 1876

近辻 喜一 (P-200026・東京)

初の凸版シリーズ「小判切手」は明治9年5月17日に開始された。本作品は黒1銭のみを貼付したエンタニア(新聞用ラッパー、定時刊行物用ラッパー、一般カバー、地方郵便カバー、葉書加貼)から構成される。

#### 【C.テーマティック郵趣、トピカル郵趣、オープン郵趣】

#### PH16(PH38)

広島から世界平和、核廃絶の願い

井上 龍太郎 (P-128507・広島)

最初の原爆被害を受けた広島市の平和への願いを経年的に取り上げ、核廃絶への途を見守る。

#### PH17(PH39)

郷土の祭り・伝統行事

柴 由紀夫 (S-9181・東京)

古代より祭りは、農業主体だった日本では五穀豊穰と家族の安全を願うものとして祭りがあった。現代でも願いは同じで、より楽しさの要素を入れて、地域のイベントとしての役割をしている。

PH18(PH40)

ふるさと切手－母が待つ里

盛口 裕助 (岐阜)

日本のふるさとを画材としたふるさと切手を中心に構成し、一つの里の情景を時間の流れに沿って展示しました。16枚1フレームによる静かな連なりを意図しています。

PH19(PH41)

山からの手紙 ー季節局などの消印ー

横谷 一宏 (P-138378・北海道)

登山の折にスタンプを押して風景印などで差し出した葉書は、昔から数多くあります。この作品では、季節局などの風景印が使用された山々を中心に、実郵便を主体に山の切手や局の消印などを加えてまとめました。

PH20(PH42－PH43) 【山口選考委員賞】

切手の中の身近な鳥「鳩の世界」

嘉藤 雅子 (P-194247・埼玉)

鳩は世界中で見られる身近な鳥です。手紙を運ぶ伝書鳩や平和のシンボルとして、切手のモチーフにも度々登場しています。昔から人間との関わりの深い鳥である「鳩」の魅力について、切手を通じてご紹介します。

PH21(PH44)

フィンセント・ファン・ゴッホの絵画

塩澤 一 (S-3048・静岡)

ゴッホの自己の感情、内面を大胆な色彩と豪快なタッチで表現した絵画作品は、美術界に大きな影響を与えた。近年、世界中の人々から愛される「ゴッホの絵画」を制作地・絵画テーマ別に追ってみた。

PH22(PH45－PH48) 【山田選考委員賞】

「50」のエコーはがきと関連マテリアル

饗場 利明 (P-178108・神奈川)

本作品は、「50」(年や回)のエコーはがきと、それと関連したマテリアルである、各種の切手、はがき、日付印を組み合わせで展開した、トピカル作品である。

PH23(PH49－PH52)

台湾へご案内

宝田 嘉久雄 (S-6093・千葉)

日本と台湾は、1895年の日清戦争後の日本統治時代から、文化や経済面で密接な関係を築いてきました。現在も両国は友好的な関係を築いています。切手を通して台湾の歴史や文化をご案内します。

PH24(PH53－PH57)

世界の鹿

藤田 総八 (P-106456・静岡)

シカの仲間にはオーストラリア・南極・サハラ以南アフリカを除いたすべての地域に生息します。シカの姿の流麗で美しいところを、切手を見て感じてみてください。

PH25(PH58－PH60) 【日本郵便株式会社賞(グランプリ)】

紅樓夢の世界

斎藤 良昭 (S-182532・大阪)

「紅樓夢」は名門の繁栄と没落を描く長編小説で今も愛好者が多い。ここでは「紅樓夢」の作者や歴史的な評価を説明し、登場人物のエピソードをまとめ、作品に関連する明清時代の華麗な文化をあわせて紹介する。

PH26(PH61)

世界のおまわりさん切手

前田 勝郎 (P-155864・神奈川)

世界各国には警察組織のない国はありません。そこで、各国の警察関係の切手を収集することにより、各国の国情の一端を伺うことができるのではと思います。

PH27(PH62) 【選考委員会賞】

切手魔方陣

森 隆幸 (P-181676・徳島)

切手発行日、ゾロ目日等の記念日に、記念押印の台紙として作成し、楽しんでいた「切手魔方陣」を一つの作品としてまとめたもので、重品切手を利用して、誰でも気軽に頭の体操ができる「遊び」を提案する作品です。

PH28(PH63－PH67)

トリバネアゲハ

磯田 清 (S-7975・神奈川)

トリバネアゲハは世界最大の蝶であり、また、世界最初の純蝶切手の図案になっている。ここでは、各国から発行された主なトリバネアゲハ切手の単片、田型、カバーなどを展示した。

PH29(PH68－PH70)

パリ万国博覧会(第1回～第5回)－芸術の都パリへの道

西野 昭夫 (S-194737・東京)

ナポレオン3世は第二帝政の皇帝に就任するや、第1回パリ万博を開いた(1855年)。同時に、セーヌ県知事を登用し、パリ大改造を推し進めた。5回の万博を通じ、芸術・文化を柱とし、国家の威信をかけ、芸術作品を世界に発信してきた。その結果、今日の芸術の都パリが出来上がってゆく。その軌跡を辿ります。

### PH30(PH71－PH73)

アフリカのサル、アジアのサル

藤波 誠治 (S-3882・東京)

人間の営みにより森林が消滅して生活の場が失われたり、サル自体が食料にされたりして絶滅が危惧されているサルたちであるが、その魅力的な姿を紹介します。

### PH31(PH74－PH75)

ボタン科と人との関わり

大畑 紀子 (L-72・静岡)

「立てば芍薬、坐れば牡丹」とは美人を表す言葉です。芍薬も牡丹もボタン科ボタン属に属します。古来、豪華な花を愛でられて栽培、観賞されるだけでなく、さまざまな器物にも用いられ、生活を彩ってきました。

### PH32(PH76)

改元物語

野口 喜義 (S-8981・東京)

「改元」に関する典型的な使用例の紹介です。注目点は変則印ですが、特に10Lは「明治」から「大正」への改元期に郵便局の運営上存在しないと言われている明治45年7月31日差立印の実郵便である葉書と封書です。

### PH33(PH77)

円形キウイ切手

荒牧 裕一 (P-143801・群馬)

ニュージーランドが1988年に発行したキウイ切手は、当時まだ珍しかった円形切手ということもあり、大人気となりました。その後も刷色やデザインを変えて発行され、同国を代表する切手の1つとなっています。

### PH34(PH78－PH81)

切手から見る絵本の世界

津田 珠美 (兵庫)

国境を越え世界中で愛される絵本が図案になった日本と外国の切手を、「消印」も意識してコレクションしました。「切手」から見える、絵本に込められた想いや魅力を表現しました。

### PH35(PH82－PH84) 【特別賞(提供：日本フィラテリックセンター)】

世界のカブトムシとそのなかま

柴田 茂 (P-142722・東京)

コンチュウ目のコガネムシ科に属する、世界中のカブトムシとそのなかまを、カブトムシ、ハナムグリ、コガネムシ、フンチュウなどグループごとに分類し、まとめました。多様な形、大きさ、重さなどを感じていただけたら幸いです。

PH36(PH85－PH87)

杉原四郎の人物切手の世界とその周辺

田中 秀臣 (P-194699・東京)

人物切手の研究で有名な経済学者・杉原四郎の貢献を、その周辺の人物(三井高陽ら)との関連を含めて展示します。

PH37(PH88)

切手に泳ぐ金魚

立川 賢一 (L-13・東京)

金魚の品種数は世界で100を超え、飼育愛好者も多いそうです。切手に泳ぐ金魚を楽しむために、体系分類により金魚の品種を概観し、ついで日本の金魚図柄切手やはがき等を蒐集し、展示しました。

PH38(PH89－PH91)

ポストマン：手紙の届く迄

中尾 トミ子 (P-194605・奈良)

今では郵便制度がすっかり定着し、郵便物の集配制度も合理化されています。郵便制度の確立前から現在までの「手紙の届く迄」を切手にて楽しく表現してみました。

【D. FDC、マキシマムカード、絵はがき】

PH39(PH92－PH95)

昭和の年賀状(昭和2年～昭和46年)

高須 俊朗 (S-75708・愛知)

昭和2年～昭和46年までの45年間の年賀状について、各年ごとに厳選したものを1リーフにおさめて、移ろいゆく時代の世相を感じ取っていただけるよう、整理して4フレームにまとめたコレクションです。